



木戸屋 浩康 先生

大阪大学 微生物病研究所
情報伝達分野

生体内イメージング解析が明らかにする 腫瘍血管のダイナミズム

組織の隅々にまで張り巡らされた血管ネットワークは、酸素や栄養分を供給することで生体の成長と恒常性の維持に働いている。この血管の役割は腫瘍組織でも同様であり、そのために腫瘍血管を標的とすることで間接的に腫瘍増殖を抑制する治療法の開発が進められてきた。しかしながら、腫瘍血管抑制剤は期待に反して際だった癌治療効果を示すことができていない。では、腫瘍血管を標的とした癌治療という概念は誤りなのであるか？

この問いの答えを得るための最も単純で確実な方法は、血管の形成過程を直接「観る」ことである。我々は腫瘍組織の生体内イメージング解析系を構築し、血管形成および腫瘍血管阻害剤による変化の観察を進めた。その結果として観察された腫瘍血管の姿は、予想を超えたダイナミクスを示していた。その中でも、「血管束移動」と名付けた既定の概念には当てはまらない新規の血管リモデリング機構は、腫瘍血管阻害剤に対する治療抵抗性への関与が明らかになりつつある。本セミナーでは、生体内で進行する腫瘍血管形成の真実について既成概念との相違点を含めて解説し、次世代の腫瘍血管阻療法ビジョンを描きたい。

日時：2019年12月23日（月）16:00-17:00

場所：医学部 北棟5階 セミナー室